

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育方針

- 人格の完成をめざし、個性豊かな人間を育成する。

めざす学校像

- 1 生徒の夢が実現できる学校（生徒の希望する進路が実現できる学校づくり）
- 2 地域とともに歩む学校（地域から愛され信頼される学校づくり）
- 3 教職員の取組みが結実する学校（教職員が課題の共有化を図り、一丸となり課題解決に取り組むことで生徒が変容し、教職員が達成感・充実感を味わえる学校づくり）

育てたい生徒像 “3つのC”

- 創造的な人間（Creation） 基礎学力を身につけ、個性豊かで創造的な人間
- 信頼される人間（Confidence） 規律やマナーを身につけ、自他を尊敬し、責任感のある人間
- チャレンジする人間（Challenge） 健やかな体を育成し、向上心旺盛で何事にもチャレンジする人間

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と進路指導の充実

- (1) 保育専門コース設置後5年を経過し、授業内容の見直した高大接続を勘案して、より分かりやすい特色の見える教育課程を編成・実施する。
 - ア 平成28年度入学生に関する教育課程変更を踏まえ、平成34年度から全面実施される学習指導要領の内容も踏まえながら、本校の実態に即した、また、保護者・生徒の希望する進路実現がはかれるよう、分かりやすい教育課程を編成・実施する。
 - イ 保育専門コースにおける高大接続をより確実に図りながら、現在行っているピアノ技能習得、保育検定を実施し、上級学校進学後に系統的な学びになるように、本校の学習内容についても整理する。特に学外で行っている実習等について、目的意識を明確に持たせるため、内容精査を進めることで、確実に単位取得に結びつく活動ができるようにする。
 - ※保育関連授業アンケートに関する全体の肯定的回答率85%以上、ピアノ演習Ⅰ・Ⅱに関する満足度85%、保育検定3・4級取得率80%、保育系大学・短大等への進学率95%以上をめざす。
- (2) 教員の授業力の向上、生徒の基礎学力の定着を図る。
 - ア 本校のめざす授業像である「わかる」「できる」「おもしろい」を実感できる授業づくりをめざす。また、授業規律を重視し、統一した基準で授業を行うことで、全教員の授業力向上をはかる。
 - イ 授業アンケートや教員相互の授業見学・研究授業を充実させ、もって授業内容・指導方法の工夫・改善を図る。また、府内外の学校視察を行うことで、基礎学力充実に向けた取り組みや授業改善の方法を学び、本校にふさわしい形で導入できるようにする。
 - ※授業アンケートを年2回実施。授業公開週間（教員相互の授業見学・研究授業）を年3回（各学期1回）実施する。
 - ※生徒の授業満足度の肯定的回答率について3か年で15%の向上をめざす。
 - ウ 総合的な学習の時間の見直しをはかる。特にキャリア教育を主体に置いた内容へと作り直し、在籍する3年間を見通して社会人としての最低限の資質を身に付けられるようにする。
 - エ 基礎学力定着に向け特に国語、数学、英語の基礎力向上に向けた取り組みを行う。特に意欲を持って取り組めるように本校独自の検定システムを作り上げる。
- (3) 進路指導に関する校内研修を通じて、教職員全体の理解を深めるとともに、3年間を見通した進路指導を実施する。
 - ア 生徒の希望する進路が実現できるよう学力生活実態調査を3年間経年実施することで自己理解力を高める。また、経年変化を追跡することで本校生の特色を理解し、学習指導にいかす。とりわけ、進路HRや進路ガイダンス、補習や講習を組織的・計画的に実施できるようにする。
 - ※就職内定率100%を継続するとともに、進路未定率を現在の20%から3年間で10%に縮小をめざす。
 - ※学校教育自己診断における進路指導面・充実の肯定的回答率について3年間で15%の向上をめざす。
 - イ 大学進学希望者に対して、放課後を講習時間と設定して、1年から計画的に講習を実施する。また、学力不振科目を有する生徒に関しては放課後指名補習を実施することで、基礎学力の定着をはかる。
 - ウ 教職大学院事業とも連携をはかり、本校で実習を重ねる学生がより高校現場に積極的に参加してもらうよう、講習や補習、生徒指導の場面を積極的に提供し、本校若手教員の指導力向上と未来の教員養成をはかる。

2 生徒指導の充実（規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ）

- (1) 全教職員が一丸となった生徒指導の推進により、基本的生活習慣の定着・改善を図る。
 - ア 髪型指導の継続・強化を図り、全員染色等なしを継続させる。
 - イ 服装指導の継続・強化を図り、服装違反者なしを実現する。また、段階的に装飾品等の指導を強化することで、高校生らしい身なりを意識させる。
 - ※平成28年度は女子のスカート丈及び装飾品指導を徹底し、3か年をかけて高校生として正しい服装・身なりを徹底する※
 - ウ 遅刻指導を継続実施する。平成26年度遅刻数の11,470名を基準として、平成29年度末には15%減少の9,750名にする。
 - ※登校遅刻数について平成29年度以降も大幅な増加をさせないようにする※
 - エ 授業規律（授業遅刻、中抜けをはじめ、私語や立ち歩き、机上に不要物を置かせない等）を確保し、一時間一時間の授業を大切にさせることで基礎学力の定着を図り、中退・留年を防止する。平成26年度の授業遅刻及び中抜け数7,123名を基準として平成29年度末15%減の授業遅刻及び中抜け数6,055名として、その後は維持をしていく。
 - オ 生徒一人ひとりの状況把握に努め、保護者と連携しながら今生徒に何が必要であるのかを考える指導充実をはかる。また、自分と異なる他者の存在に気づくための人権学習に力点を置き、3か年をかけて系統的に学び続けられる基盤をつくる。
 - カ 政治的素養を身につけさせる指導の充実をはかり、社会人としてのスキルと政治に対する正しい知識を3年間の高校生活で定着させる。そのための指導計画の充実をはかる。
- (2) 月間目標を定着し、学年に応じた施策の充実を図る。
 - ア 学年毎の月間教育目標を策定し、全校集会を月1回実施する。また、場合によっては学年毎で目標を変えながら、学年にあった目標設定を行う。目標に対しては、3年間継続的に実施し、各分掌から具体的な取り組みを実施する。

3 地域連携と開かれた学校づくり

- (1) 地域から愛され信頼される学校づくりを推進する。
 - ア 学校行事の活性化を図り、生徒が主体的に参加し、自ら積極的に行事を運営している意識づけを行う。また、PTAとも連携しながら、保護者や来賓来場者数の向上を図る。
 - ※平成26年度の来場者人数（体育祭192名・文化祭612名）を基準として、平成29年度末には15%向上の体育祭220名、文化祭703名とする。※
 - イ 生徒会活動及び部活動の活性化を図り、部活動入部率を1年生の段階で50%まで高める。また、地域小・中学校と連携しながら、高校生部活動加入生徒による指導の場面を提供し、地域の方々が本校へ足を運ぶ機会を増やす。
 - ※平成28年度には最低1部活動で地域小中学生対象のスポーツ教室を実施する。段階的に小中学生スポーツ教室を増加させ、3年後には年中行事として認識されることをめざす。
 - ウ 地域連携を推進する。本校主催及び地域関連行事に関する受け入れ可能なものについては、土日での受け入れを行う。また、地域主催事業への参加や地域発信事業を継続的に実施する。
- (2) 中高連携の推進（中学校との連携を密にし、不本意入学を防止する）
 - ア 生徒の出身中学校全校訪問を引き続き各学期で実施する。合理的配慮を意識し、保護者との聞き取りと合わせて中学校での配慮等の聞き取りを密にすることで、生徒の困り感を把握し、3年後には意識せずとも合理的な配慮ができるようにする。
 - イ 中高連絡会を定期的に開催することで、本校に進学した生徒の情報を共有し、連携しながら中退防止をはかる。
- (3) 開かれた学校づくりの推進
 - ア 生徒会通信を活用した情報発信やHPの更なる充実をはかる。また、地元広報誌への本校行事の掲載を依頼し、地域への情報発信を積極的に行う。また、保護者への情報発信ツールとしてメールマガジンを活用し、3年後には全ての学年でメールマガジンを活用した発信を行う。
 - ※メールマガジンへの保護者登録数80%以上とする。また、HPは最低でも週2回は更新する。
 - イ 学校教育自己診断の分析を積極的に行うことで学校改善を図る。（評価結果を学校協議会やPTA実行委員会において協議し、次年度の学校改善に反映させる。）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|--|--|
| <p>【生徒及び保護者の結果より】</p> <p>本年度の自己診断については、昨年度と異なり回答に「わからない」という項目を追加した。そのため、生徒では平均で 14.4%が、保護者では平均で 16%が「わからない」に回答していた。そのため、昨年度との純粋な比較は困難であるが、数値的には「わからない」を除いた割合で比較している。</p> <p>生徒の結果については、全般的に昨年度を下回る結果となった。また、保護者からの回答は、ほぼ昨年度並となった。類似項目で比較してみると、</p> <p>①生徒：学校へ行くのが楽しい (68.5%→58.5%▼10) 保護者：学校へ行くのを楽しみにしている (67.5%→70.2%△2.7)</p> <p>②生徒：生徒の意見をよく聞いてくれる (58.5%→41.2%▼17.3)</p> <p>③生徒：授業はわかりやすく楽しい (51.3%→38.8%▼12.5) 保護者：授業が分かりやすく楽しいと言っている (50.1%→50.2%△0.1)</p> <p>④生徒：評価は考査以外に授業への取り組みも含まれている (75.4%→66%▼9.4) 保護者：いろいろな面から学習評価を行っている (76.9%→75.2%▼1.7)</p> <p>⑤生徒：進路の情報を知らせてくれる (68.5%→55.5%▼13) 保護者：進路面で家庭連絡や意思疎通をしてくれる (66.5%→63.5%▼3)</p> <p>⑥生徒：行事は楽しく行えるように工夫されている (67.3%→55.4%▼11.9) 保護者：行事に積極的に参加している (80.5%→82.4%△1.9)</p> <p>⑦生徒：部活動が活発になるようにしている (48.5%→38.6%▼9.9) 保護者：部活動は活発である (53.7%→57.4%△3.7)</p> <p>⑧生徒：生活に関する先生の指導に納得できる (53.3%→37.5%▼15.8) 保護者：生徒指導方針に共感できる (65.6%→61.1%▼4.5)</p> <p>⑨生徒：ルールについて学ぶ機会がある (61.8%→50.5%▼11.3) 保護者：ルールを守る態度を育てようとしている (68.9%→69.1%△0.2)</p> <p>⑩生徒：人権について学ぶ機会がある (62.6%→53.5%▼9.1) 保護者：人権尊重の姿勢で指導している (68.9%→67.1%▼1.8)</p> <p>⑪生徒：少人数の授業はわかりやすい (65.7%→51.3%▼14.4)</p> <p>⑫生徒：プライバシーが守られている (72.0%→63.0%▼9) 保護者：個人情報を守られている (87%→86.9%▼0.1)</p> <p>⑬生徒：地域や近隣の学校との交流の機会がある (40.2%→31.4%▼8.8)</p> <p>⑭生徒：施設・設備は整備されている (50.0%→30.9%▼19.1) 保護者：施設・設備はよく整備されている (53.5%→50.1%▼3.4)</p> <p>⑮生徒：気軽に相談できる先生がいる (48.4%→43.1%▼5.3) 保護者：保護者の相談に適切に応じてくれる (78.3%→79.7%△1.4) 保護者：心身の健康について気軽に相談できる (64.4%→66.4%△2)</p> <p>⑯生徒：将来の生き方について考える機会がある (62.7%→63.2%△0.5) 保護者：生き方を考え豊かな心を育てようとしている (61.7%→60.8%▼0.9) 保護者：将来の進路や職業など、適切に指導している (75.1%→73.1%▼2)</p> <p>⑰生徒：生徒会活動に積極的に参加している (29.4%→23.7%▼5.7) 保護者：生徒会活動は活発である (53.3%→58.7%△5.4)</p> <p>⑱保護者：PTA活動は活発である (66.1%→70.9%△4.8)</p> <p>⑲保護者：授業参観や学校行事に参加したことがある (48.9%→53.8%△4.9)</p> <p>主な点については、上記のとおりであるが、生徒の意見と保護者の意見が乖離している点がある。また、集計については、本年度(平成 28 年度)より、回答項目に「わからない」を追加している。これは、保護者からしたら、高校の活動が見えにくい部分があり、従来から指摘されていた点であることから、回答促進を図る意味でも追加した項目である。この結果、回答率は 57.9%→74.8%と大幅に向上した。なお、統計上は昨年と同様、昨年度の「無記載」＝本年度の「わからない」を同等とみなし、統計上の分析数値に含めずに割合を計算している。</p> <p>【傾向と分析】</p> <p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒については全般的に低下傾向である。原因として、制服のマイナーチェンジに伴う生徒指導の強化がある。平成 28 年度に関しては、 ①マイナーチェンジに伴う女子制服スカートの丈指導(1 年生で特に強化) ②装飾品指導の強化(ピアス等の預かり指導) ③遅刻、頭髪指導の継続的な指導 <p>などを強化ポイントとして行っている。そのため、低学年ほど生徒指導に関する共感性が低くなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動に関しては、加入している生徒に関しては、活発な活動の結果、成果もあげているが、反面加入率が 40%弱であり、60%強の生徒に関しては、部活動に興味を持っていないのが現状であり、一進一退が続いている。体育祭や文化祭の行事に関しても、一部の生徒に関しては精一杯の取り組みがあり、充実感を持っている。ただ、学校行事も学校生活の一部であるため、服装や頭髪規律については普段と同様の指導のうえ、場合によっては体育祭での応援団参加禁止や文化祭での出演禁止などを行っている。そのため、生徒指導が厳しく自由がないという意識が芽吹いている。 ・課題を抱える生徒に対する相談体制に関しては、生徒の様子がここ数年変化することで、教員との距離が遠ざかっている印象もある。スマホでのコミュニケーションが多くなり、そのため人懐っこく先生に気軽に声をかけてくる様子は減っている。逆に、自分の中に不安をため込んでいる場合が多く、得てして積極的に相談に訪れることが少なくなった。 ・人権学習に関しては、各学年での取り組みであるが、連続性という意味ではやや課題意識が欠けた分、肯定的な回答が減少している。現在 1 年生で計画的に人権的な要素を踏まえた学習を導入しているため、次年度以降に踏み込んだ指導を入れる。また、抽象的な問題を扱う場合が多く、より生徒に身近な事象を課題として講演会を企画するなど、抜本的に考え直して行く。 | <p>【第 1 回 平成 28 年 6 月 21 日(火)実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5 年前とは随分と様子が変わり全体的に落ち着いてきている。また、就職した生徒も離職する割合が高くなっているのが気になる。進学者でも、安易に進学したり、奨学金を借りて進学している生徒もいるが、目標を持って就職や進学をめざしてもらいたい。 ・離職するものが多い対策として、同窓会などを活発に行い、そこで意見交換できるようにしたら共感できる場ができていいのではないかと。 ・保育者となっても担任を受け持つことで精神的、体力的にしんどくなることが多い。就職、進学した後に理想通りとなるケースが少ないので、入前に仕事内容などがわかるようなシステムづくりができればいいのではないかと。本当は、入社してからやりがいを見つけられるのがいいのだが、難しいのが現実である。 ・社会に出てからも友達としての言葉づかいしか学んでいないケースがある。先生も〇〇さんと積極的に呼ぶことで、生徒も話し方がわかってくるのではないかと。また、アルバイトをしている生徒は、アルバイト先で鍛えられている可能性が高い。 ・勤務先で椅子の上に立膝で座っている場合もある。また、授業見学の際でも教科書を枕に寝ている生徒がいた。やはり「癖」になっている面もあるので、学校でできる指導は、先生がしっかりと教えていくべきである。 ・授業中でも質問して、ちゃんと答える生徒もいる。逆に、まかせろ、どうでもいいと答える生徒もいるので、生徒が思考できるような授業展開も考えていくべきである。 ・3 年前の 40 周年のときと比べると生徒感は随分と変化している。全般的な高校生の傾向と思うが、やはり「面倒くさい」と思うことは、なかなかしないのが現状である。いかに面倒なことをさせるか、そして満足感を得させることができるかが課題である。 ・欠席や遅刻など目標を決めて順位づけをするなどいい取り組みもしている。体育祭なども、生徒が主体的に活動しているので、目につきにくい場面での頑張りを評価してやって欲しい。そして、コツコツ頑張ることの大切さを教えて欲しい。地道な島高の取り組みは評価できる。 ・いろいろと取り組んでいる内容を、積極的に情報発信すべきである。看板をつくったのもいい取り組みであるし、アピールをして欲しい。 <p>【第 2 回 11 月 28 日(月)実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断について(途中経過報告) <ul style="list-style-type: none"> →人権意識向上に向けて、人権教育を更に取り入れていくべきである。また、学校が落ち着いてきているので、授業に力点を置く必要がある。 →生徒指導面では厳しい指導から、なぜ駄目なのかを丁寧に説明し、理解させる方向へ移行し、生徒に納得感を持たせるべきである。 →今年度から「わからない」という項目を入れたことで、「やや思う」に回答していた人が「わからない」に移行し、全体的に肯定的な数値が下がったはずである。次年度以降、結果を注視する必要がある。 →制服を変更したことにより、学年間で指導に差が出ているため、1 年生での結果が悪くなっているはず。教員間の交流を深め、ルールを守る意識を向上させる必要がある。 →生徒が主体的に活動できる場を増やし、また面倒なことも取り組ませることで、達成感を得させる必要がある。その意味では、少し見守り、失敗しても大丈夫だという環境を作る必要がある。 →テストの結果だけではなく、それ以外での学校のあらゆる場面でほめることを進めていく必要がある。また、授業でも「わからない」で終わるのではなく、仕掛けをして更に面白くすることが必要。 →少子化に対応する施策が必要である。 ・芸術祭について(授業見学) <ul style="list-style-type: none"> →1 時間で区切ることで、集中して聴けるように工夫されていた。鑑賞する態度もよかった。また、鑑賞した後に作品鑑賞をするなど、随所に工夫があった。 →保育専門コースの生徒が目立っていたので、それ以外の生徒も出られるようにして「島本高校」としての芸術祭としていければいい。また、音楽以外でも美術や書道選択者も発表できるような場面があったらよかった。 →2 年生と 3 年生の力量の差がはっきりとしていたので、混在させることで力量差がわからなくなる工夫があったらよかった。 <p>【第 3 回 2 月 1 日(水)実施予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活指導について <ul style="list-style-type: none"> 遅刻指導の現状、スカート丈指導の現状について説明し、今後も更に減少に向けて取り組んでいくことを報告。また、次の段階として、生徒・保護者の納得感を得ながら丁寧に説明し、協力してもらえることを課題として取り組んでいく方針を確認。 →遅刻指導にかかる生徒の多い学年に関して、質問があり、生徒や保護者が理解しながら指導できることの有効性について意見をいただいた。また、遅刻の原因に関して、アルバイトや生活習慣の乱れが根底にあり、原因の共有をはかった。また、それぞれの遅刻理由によりアプローチ方法をかんがえながら、更に遅刻数を減少していくための分析について指摘いただいた。 →スカート丈指導について、その効果について質問をされ、正門前等での指導や授業中での指導により、指導件数が少なくなり、ほぼ長いスカート丈で生活できていることを理解いただいた。 ・進路指導について <ul style="list-style-type: none"> 就職状況について、現段階で就職希望者が増加傾向にあり、これも 6 年連続就職内定率 100%の効果であること、保育専門コース生は約 8 割(74%)が保育系に決定していること、SSL(島本スタディラボ)の取り組み結果について説明した。また、進学希望者に対して、7 限目講習の枠組みづくりや進路未決定率 10%以下を維持していく方向性について確認した。 →四年制大学進学希望者に関して男子が多いことに関して質問があったが、女子についても四年制大学志望者がおり、偏っているわけではないということを説明した。また、専門学校進学者数についても質問があり、全体の約 3 割が進学していることを説明した。 |

・規律やルールに関しては、常に問題事象が生じた際に注意喚起をしているが、個々が真剣に考える場にならず、一方通行的になっている。そのため、私事として捉えることができず、学ぶ機会と位置付けていないためと考えられる。指導形式改善を図りながら、より強い意識を持てるようにしていく。

<保護者>

・保護者の結果に関しては、ほぼ横ばいとなっている。特徴的な面として、生徒の回答と保護者の回答に大きなずれがあるところである。例えば、生徒は「学校に行くのが楽しい」が58.5%と10ポイント減少しているのに対し、保護者は「学校に行くのを楽しんでいる」が70.2%と2.7ポイント上昇している。ここに大きな隔りがある。保護者の目から楽しそうにしているのに、生徒自身は実際には楽しく思っていない。この原因を考えていく必要がある。一つには、授業がある。生徒の結果からも授業は楽しく思っているのが40%弱で、保護者も50%程度であることから、早急に授業改善を図っていく必要がある。教員の授業に対する対策をいかに、授業改善を図りながら工夫している。しかし、生徒に工夫が届いていないのが現状であるため、より生徒の状況を把握した改善を図っていききたい。

・5ポイント以上の大きな下げ幅の部分が少なく、また今年度の回答率から考えると、より保護者の意見が反映した結果であると判断できる。今後も70%以上の回収率を維持できるように推進していく必要がある。

【教員の結果より】

- ①生徒の意見をよく聞いている (85%→92.9%△7.9)
- ②教材の精選・工夫を行っている (83.3%→87.5%△4.2)
- ③創意工夫を活かした総合的な学習の時間 (41.7%→71.4%△29.7)
- ④参加体験型の学習の実施と指導方法の工夫 (70%→80.4%△10.4)
- ⑤教育相談体制が整備されている (85%→92.9%△7.9)
- ⑥奨学金制度等について指導している (78.3%→83.9%△5.6)
- ⑦学校行事が魅力あるものとなるよう工夫改善している (88.4%→94.6%△6.2)
- ⑧人権尊重に基づいた指導を行っている (76.7%→85.7%△9)
- ⑨各分掌、学年が有機的に機能している (55%→69.6%△14.6)
- ⑩予算はルールに基づき適切に編成執行している (65%→75%△10)
- ⑪経験の少ない教員を学校全体で育成している (51.7%→60.7%△9)
- ⑫校内で授業を見学する機会がある (88.3%→96.4%△8.1)
- ⑬個人情報管理システムが構築されている (66.7%→75%△8.3)
- ⑭情報の周知に努めている (81.6%→92.9%△11.3)
- ⑮部活動活性化への工夫をしている (75%→64.3%▼10.7)
- ⑯人権尊重で参加体験型の指導で完成を養っている (70%→60.7%▼9.3)
- ⑰障がい者理解など工夫して行っている (56.7%→50%▼6.7)
- ⑱ゆとりと潤いのある教育環境が整備されている (55%→46.4%▼8.6)

・主なものを取り上げているが、生徒のイメージと教員のイメージと乖離している項目もある。授業については、体験型授業も含め多くの教員が創意工夫をしながら実施しているため、現状は過渡期にあるといえる。生徒の反応をみながら、より一層生徒が参加しやすく達成感を味わえるものにしていければよい。

・若い教員が多く、それぞれが生徒の声に耳を傾けながら、寄り添った指導や強い指導をしている。丁寧に指導している場面もあるが、長時間話を聞けないケースもあり、その場合指導が理解できないとなるケースもある。今後、指導の理由を明確にしながら、再度指導方針を生徒に伝えていく必要がある。

・全体的に高い数値で推移している。各組織が有機的に機能するよう、連携を取り始めることができている。予算等不透明な部分に関して、透明性を出すことで、理解しながら執行することができている。

・部活動や人権教育については後手を踏んでいるケースが多いため、より他者を理解する指導を強化していく必要がある。そのために、人権教育に関して3年間を見通した計画を学校全体で進めていく必要がある。

※回答項目を変更したため、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」の4項目で行った場合、「わからない」を追加すると、肯定的な数値が減少する傾向がある。その傾向が本結果でも現れた形となった。平成29年度以降の結果を注視する必要がある。

・平成28年度学校評価(案)について

→生徒指導目標として、カラーコンタクトがあるが装着数について質問があった。全体的には男子は少数であるが、女子は約半数が着用している。また、指導しにくい状況として、衛生面の問題として、その場での着脱指導が困難な点や、わかりにくい面などがあることに理解をいただいた。

→学習意欲の高い生徒に対しては、SSLなどで手厚く支援をして欲しい。

→意見を聞いてくれる先生が少ないことに着目して、生徒の理解して欲しいという気持ちを受け止める必要がある。

→経済的支援を受けている生徒に対して、その生徒が前向きに学ぼうとする手だてを考えていく必要がある。

・平成29年度学校経営計画(案)について

→小学生向けの交流を推進することで、もっと島本高校に目を向けてもらえるのではないか。

・その他

→楽しい授業と確かな学力をつける授業は相反するので、数値目標にとらわれすぎずに授業改善をはかる必要がある。

→授業の時だけわかったと思わせることは簡単なので、その後の積み重ねの方法を考えていく必要がある。

→学習方法のわからない生徒が多いと思われるので、丁寧な指導が必要である。また、学ぶ楽しさをどう伝え定着させるのかの工夫が必要である。

→学べる環境をつくることも含め、生徒が一步踏み出せる機会の創出を工夫する必要がある。

→島本高校に来たからこそ伸びたと思えるような生徒の育成をめざしてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|-------------------------------|---|--|---|--|
| <p>1 確かな学力の育成と進路指導の充実</p> | <p>(1) 教育課程再編成と高大接続 ア 平成 29 年度入学生教育課程の編成(継続)</p> <p>イ 保育専門コースの学習内容の精選と高大接続(新規)</p> <p>(2) 授業力向上と基礎学力の定着 ア 授業力向上(継続・新規)</p> <p>イ 授業視察と他校視察の実施による授業改善(継続・新規)</p> <p>ウ 総合的な学習の時間の見直しとキャリア教育推進(新規)</p> <p>エ 独自の学び直しシステムの構築(島本検定の導入)(新規)</p> | <p>(1) ア 平成 29 年度入学生の教育課程を新たに編成し、全学年で総合的な学習の時間を1時間ずつ学習できるようにする。また、平成 28 年度に再編した3年次の類型について、選択科目も含めて更にわかりやすくする。(継続) ・平成 29 年度教育課程の抜本的な再編成と保育専門コースのシラバスの再構築(継続) ・類型の特色を活かした選択科目の設定と進路指導を意識した教育課程の編成(継続) ・保育専門コースの科目名等の見直しも含め、内容を精選する。 ・選択科目の絞り込みを行い、外部からも分かりやすいものにする。</p> <p>イ 保育専門コースの学外単位認定に向け、高大接続を意識しながら、「高校の学び」と「大学や短大の指導」及び「保育現場の指導」が一貫性のあるものとする。また、学習内容についても系統的に学べるものとして再編する。(新規) ・高大接続を活用し、高校での学びに関して大学や短大教授により一貫指導とする。(新規) ・学外単位認定に向け、外部学習機会を整理し、2年次、3年次の35時間分の内容を精査する。(新規)</p> <p>(2) ア 授業規律の徹底をはかり、メリハリを持って授業を行うことはもちろん、授業充実会議を起点として、他校視察によって得た内容を本校版にアレンジし、生徒が主体的に学習参加できる授業改善をめざす。(継続・新規)</p> <p>イ 平成 27 年度に実施した府内外の学校視察を引き続き行うことで別角度から本校の取り組みを見直し、新しい授業観を身に付け実践する。(継続・新規)</p> <p>ウ 平成 28 年度入学生に対する総合的な学習の時間の内容の見直しを図り、1年生の2時間のうち1時間はキャリア教育を主体としたものに再構築をする。その結果平成 29 年度入学生がスムーズに総合的な学習の時間を学べるような礎とする。(新規)</p> <p>エ 1 年生における総合的な学習の時間のうち1時間について、学び直しの観点を尊重しながらも、自ら積極的に取り組める力を育成するため、新たに島本検定を草案し実施する。(新規)</p> | <p>(1) ア 遅くとも6月までに平成 29 年度教育課程を完成させ、12 月には学習内容に関するシラバスを完成する。 ・平成 29 年度入学生に係る教育課程を完成し、長期休業中より学外単位認定に向けた取り組みを実施する。 ・授業アンケートの知識、技能が身に着いたとする割合 90%以上とする。(平成 27 年度実績 84.5%)</p> <p>イ 学外単位認定に向け、各学期及び長期休業中に連携大学との協議を行い、実習内容を確定する。 ・保育専門コースの生徒が長期休業中に実習を最低でも2日間行い、学んだ内容が楽しいとするアンケート結果を 90%以上とする。(平成 28 年度からの新規取り組みのため平成 27 年度指標なし)</p> <p>・外部連携の時間数を整理しながら、平成 29 年度の2年生に関して週 35 時間の学習時間を確保する。また、評価方法を確定し、学外授業が楽しいとする結果を 90%以上とする。(平成 28 年度からの新規取り組みのため平成 27 年度指標なし)</p> <p>(2) ア 授業が分かる、楽しいとする割合を 70%以上とする。(平成 27 年度 51.6%) ・教員による学校教育自己診断のうち、参加体験型の学習を行うなど工夫されているとする指標を 75%とする。(平成 27 年度 70%)</p> <p>イ 引き続き府外への学校視察に3名出向き校内で発表しながら授業改善の共通理解を推進する。(平成 27 年度は愛知県に3名派遣し、校内で報告の上総合的な学習の時間で反映)</p> <p>ウ 平成 28 年度入学生よりキャリア教育を実施し、教員に関する学校教育自己診断のうち創意工夫をした総合的な学習の時間を実施しているという評価を 60%とする。(平成 27 年度は 41.7%)</p> <p>エ 島本検定を実施することで、取り組みが楽しいとする割合を 70%以上とする。(新規での取り組みのため平成 27 年度の実績なし)</p> | <p>(1) ア 6月までに1年次教育課程について完成させ、全ての学年で総合的な学習の時間を設定した。類型毎の選択も複雑化を避け、保育専門コースの科目再編も行い、12 月には完成した(○)。特に大学進学者に向けた教育内容は整理できた。保育専門コース生に長期休業中に新しい外部施設での取り組みも実施した(○)。(イオン茨木での子どもまつり及び大阪成蹊学園施設での特別授業) ・授業アンケートを見ると知識・技能が身についたとする割合は第1回で 81.1%、第2回で 72.2%であった。更なる授業改善の必要性がある(△)</p> <p>イ 平成 29 年度入学生に向けて、大学・短大への学びに向け指導の一貫性を図る論議を複数回実施した。その結果、新しい科目を設定し、一つ上の保育の学びへと繋げる道が開けた(○)。 ・長期休業中に保育体験実習を3年生は2日、2年生も2日実施した。他に、2日間伊茨木において子どもまつりの体験を実施した。その結果、アンケートでは、楽しいとする割合は 100%であった(◎)。 ・外部連携の時間数については、40 時間程度を準備することができた。現在、絞込みを行っている。評価方法についても、多くの教員が関わることで、評価表の策定を行っている。なお、今年度の体験として、学外授業が楽しいとする割合は第1回授業アンケートでは 87.8%が、第2回では 89.8%であった。他に、高校における連携授業も年2回実施し、近隣保育所の園児を招いたクリスマス会も実施できた(○)。 ・外部授業に関しては、高大連携授業を含めて、35 時間の学習時間については確保できている(○)(島本高版こどもまつり、イオン茨木こどもまつり、成蹊学園連携、成果発表会、保育所実習等)。また、第1回授業アンケートでは 87.8%が、第2回では 89.8%が実習が楽しいとしている(○)。</p> <p>(2) ア 学校教育自己診断における授業が楽しいとする割合は 38.8%であった(△)。反面、教員による学校教育自己診断における参加体験型の学習を行うなど授業が工夫されているとする割合は 80.4%であった(○)。教員の意識と生徒の意識が乖離している原因を探り、授業内容の充実をはかる必要がある(△)。</p> <p>イ 府外へは鳥取県へ視察を行った。総合的な学習の時間を基本としながら、地域連携を取り入れた特色ある施策を視察し、職員会議でも報告し、授業規律に向けた取組を次年度導入する計画である(○)。(3名派遣)</p> <p>ウ 平成 28 年度1年生のキャリア教育についてはほぼ計画通り進んでいる。次年度3年生の総合的な学習の時間についても、柱を決定し、平成 29 年度入学生から実施できるように、3年間を見通した内容へ検討がスムーズに進んでいる。学校教育自己診断でも創意工夫しているという割合が 71.4%となった(◎)。</p> <p>エ 年4回実施の方向で島本検定を計画通り実施できている。年度末にはアンケートを実施し、次年度以降の島本検定の導入方法について、再度検討している最中である。島本検定の取組みなど、楽しく、積極的に取り組んだものは 78.8%であった(○)</p> |

府立島本高等学校

| | | | |
|---|---|--|---|
| <p>(3) 進路指導の充実</p> <p>ア 学力生活実態調査の分析と進路ガイダンス機能の充実及び補習・講習の組織化(新規)</p> <p>イ 進学希望者に対する進路講習の充実及び成績不振者に対する指導充実(継続)</p> <p>ウ 保育専門コース進学率の向上</p> <p>エ 教職大学院学生の内容充実と本校教員の資質向上(新規)</p> | <p>(3)</p> <p>ア 現在実施している学力生活実態調査の経年結果を個別に分析し、意欲を持って進学意識を持って学んでいる生徒に対して、個別懇談等を通して現状把握をさせ、モチベーションの維持をはかる。(新規)</p> <p>イ 強い進学意識を持っている生徒に対して、自習室の開放や放課後の学習活動の場を組織的に設置し、学力の維持及び進学意識の維持をはかり、高い目標設定を可能とする。(学習活動のクラブ活動化を模索する)また、成績不振者に対しては、学期毎等に指名補習を行うことで、不振科目の克服をはかる。(継続)</p> <p>ウ 高大連携を推進することで、保育系指定校枠の確保を行うとともに、目的意識を明確にすることで、進学意識を向上させる。</p> <p>エ 教職大学院に籍を置く学生の受け入れに伴い、講習や補習への積極的に参加できる場を増やし、校内においては若手教員が指導的な立場に立つことで、教員としてのスキルアップをはかる。(新規)</p> | <p>(3)</p> <p>ア 学力生活実態調査の経年結果を分析し、平成 28 年度入学生に関して、診断結果の低下を防ぐ。(新規での取り組みのため平成 27 年度の実績なし)</p> <p>イ 検査前に定期的に自習室を解放し、利用人数を増やす。また、指名補習を検査前等に行うことにより、不振科目を持っている生徒数の 10%減少をはかる。(平成 27 年度は 159 名)</p> <p>ウ 現状の保育系指定校推薦枠を維持しながら、大学・短大への保育専門コース進学率を 85%に押し上げる。(平成 27 年度実績 61%)</p> <p>エ 教職大学院と連携した講習や補習の実践を増加させ、成績不振者を減少させる。若手の指導機会を増やすことで、意欲を持って職務に取り組める割合を 10%向上する。(平成 28 年:80%)</p> | <p>(3)</p> <p>ア 学力生活実態調査の結果により、平成 28 年度入学生は、年度当初 D 3 に位置していたものが、第 2 回では 120 名から 127 名になった。また、B に位置しているものは年度当初 4 名から 8 名に増加した。今後も引き続き、診断結果の低下を防ぎ、上位層を伸ばしていく必要がある。(○)</p> <p>イ 検査前のみならず自習室に関しては計画的に開放している。利用人数に関しては劇的な増加とはなっていないが、定期的に利用している生徒もいる。指名補習についても、2 学期中間検査より取組、定着に向けて更に推進していく。欠点者数については、159 名となり、179 名となり微増となった。(△)</p> <p>ウ 指定校枠に関しては、減少することはなかったが、現状で 3 学年の 1/4 は保育系以外への進路を選択している現状がある。更に高大連携を推進し、同時に授業内容の精選を進めていく。また、年度末において保育専門コース選択者の保育系への進学は 74%となり、昨年度に比べ 13 ポイント上昇したが、85%には届かなかった。(△)</p> <p>エ 教職大学院については大学側で認可された後、具体的なアクションがなく、現状を打破できずにいる。反面教志セミナーの受入を行うことで、国語科で T T を行うなど、取組みをすすめ、若手との連携もできている。学校教育自己診断では教職員が意欲的に取り組める環境にあるという数値が 78.6%となっている(H28:80%)。ほぼ横ばいであり、更なる意欲向上を図りたい(△)</p> |
|---|---|--|---|

| <p>2 生徒指導の充実（規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ）</p> | <p>(1) 生徒指導体制の更なる充実 ア 頭髪指導の更なる充実（継続） イ 服装指導の更なる充実（新規） ウ 遅刻指導の更なる充実（継続） エ 授業規律の徹底と中退防止（継続） オ 人権教育の推進（新規） カ 社会人としてのスキルを身につけさせる（新規）</p> | <p>(1) ア 現在行っている頭髪指導を継続しながらも丁寧な指導を行う。特に入学時に頭髪の現状把握を保護者、生徒とともに密に行うことで、家庭と連携した頭髪指導を行う。違反を繰り返す場合には、家庭と連携しながら特別指導を実施する。（継続） イ 平成 28 年度入学生から制服のマイナーチェンジを行い、着こなしがしやすいようにした。また、女子のスカート丈が短くならないような制服改定を活かした指導を行う。また、併せて装飾品指導についても並行して行うことで、高校生らしい身なりを徹底させる。（新規） ウ 10000 件を切った登校遅刻に対して、継続指導を行いながら、更なる減少をめざす。また、繰り返し遅刻を行う場合には、家庭と連携しながら特別指導を実施する。（継続） エ 授業力向上に向けての取り組みと合わせて、休み時間と授業のメリハリを持った指導を行う。そのために、机上の整理や携帯電話指導を徹底して行い、全校で一致して授業環境の充実をはかる。このことを通して、成績不振科目を減らし、成績不振による中退数減少をはかる。（継続） オ 各学年で系統的に他者についての理解を深めるため、人権学習の機会を組織的に構築する。（新規） カ 1 年生から継続的・計画的に政治的素養についての指導を行う。とりわけ、働くことの意義と選挙権の意味と仕組みを理解させる。（新規）</p> | <p>(1) ア 頭髪違反者による特別指導数「ゼロ」を継続する。入学時には、保護者との連携を密にし、年度途中でのトラブルを「ゼロ」とする。 イ 女子のスカートを短くする割合を半減する。特に新入生に関しては 80%以上の生徒が、守れるようにする。装飾品についても、取り上げ指導「ゼロ」をめざす。 ウ 遅刻指導を継続実施することで、特別指導の件数 10%減少をめざす。また、10,000 件以下の遅刻数を維持する。（平成 27 年度 9,736 名） エ 成績不振科目を抱える人数を 10%減少させる。また、成績不振に伴う中退者数を 10%減少させる。（平成 27 年人数 19 名） オ 人権学習の機会を最低でも各学期 1 回行うことで、人権について意識が向上したとする割合を 5%向上させる。（平成 27 年度実績 62.6%） カ 政治的素養を養う教育を行うことで、政治について理解し、社会参加しようと意識できる生徒の割合を 70%以上とする。（平成 28 年度の新規項目のため平成 27 年度実績はない）</p> | <p>(1) ア 頭髪違反者に関しては、特別指導に入る生徒はいまのところ 1 名に留まっている。今後更に指導者が増えないように、丁寧に家庭と連携していく。また、保護者との間におけるトラブルはいまだに生じておらず順調である（○）。 イ 新入生の入学に伴う制服改定により、スカート加工をした生徒は現状 2 名となっている。2・3 年生の制服が改定前であり、指導が入りにくい面もあるが、引き続き指導していく。現状では 80%以上で守られている。また、装飾品については 158 件の預かり指導を行っている。新しい取組みとして、継続して指導していく（△）。 ウ 登校遅刻については、年度末で 8550 件であり、1 年生の遅刻が多い。授業遅刻についても、1 年生が多くなっており、今後授業の大切さを含め、生活指導をしていく必要がある。引き続き年間 10000 件以内を目標とする。（○） エ 机上整理や授業とのメリハリについては、完全に指導ができていないわけではない。一定数の生徒については、授業準備を行い、前向きに取り組んでいる。年度末における成績不振による中退者数は 20 名となり、昨年度と比較して 28 名減少した。（○） オ 継続的に人権に関する指導を行っている。1 年では 1 学期に SNS、2 学期には障がいのある方の講演、全校人権学習を実施。3 年生でも、2 学期に全校人権学習と集会時に SNS に関する指導及び講演を実施した。2 年生では、2 学期に「個人の違い」についてと全校人権学習を行った。また、1 月には「日常的に用いている言葉」について行う予定である。しかしながら、人権に関して意識が向上した割合は 53.5%であった。人権学習前に調査を行った結果の数値では昨年度を下回り、1・2 学期の取組みの希薄さを改善する必要がある（△）。 カ 政治的素養を養う教育については、模擬投票を含め計画的に実施している（自主投票による模擬投票率は 70%を超えており、概ね意識の向上は図られている）（○）。特に 1 年生は社会の構造を知ると題して、教員劇による生き方についての場面を設けた。引き続き、働くことの意義を主に、ニート・フリーターを減少する指導を行っていく。（○）</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------------|--|--|--|--|-----|-----|-----|---------------|--|--|-----|---------------------|--|--|-----|------------------|-----------------|--|-----|---------------------|--|--|-----|-------------------|--|--|------|----------------------|-------------------|--|------|------------------|-------------------|------------------|------|--------------------|--|--|-----|------------------|--|--|-----|-------------------------|--|--|---|
| | <p>(2) ア 学年に応じた月間目標の設定と制作の充実（継続） イ 各分掌で目標に沿った取り組みを実施する（新規）</p> | <p>(2) ア 学年毎で月目標を設定し、各分掌等で目標に対する具体的な目に見える取り組みを行う（継続）</p> <table border="1" data-bbox="499 1935 1024 2534"> <thead> <tr> <th></th> <th>1 年</th> <th>2 年</th> <th>3 年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4 月</td> <td colspan="3">挨拶をしよう（生徒生活部）</td> </tr> <tr> <td>5 月</td> <td colspan="3">遅刻をしないようにしよう（生徒生活部）</td> </tr> <tr> <td>6 月</td> <td>授業を大切にしよう（学習情報部）</td> <td colspan="2">修学旅行を成功させよう（学年）</td> </tr> <tr> <td>7 月</td> <td colspan="3">基本的な生活を振り返ろう（生徒生活部）</td> </tr> <tr> <td>9 月</td> <td colspan="3">文化祭を成功させよう（行事企画部）</td> </tr> <tr> <td>10 月</td> <td>将来を考えよう（進路指導部・学習情報部）</td> <td colspan="2">社会について考えよう（進路指導部）</td> </tr> <tr> <td>11 月</td> <td>社会の構造を学ぼう（進路指導部）</td> <td>リーダーを自覚しよう（行事企画部）</td> <td>他者を理解しよう（生徒支援会議）</td> </tr> <tr> <td>12 月</td> <td colspan="3">人権について考えよう（生徒支援会議）</td> </tr> <tr> <td>1 月</td> <td colspan="3">健康管理に努めよう（生徒生活部）</td> </tr> <tr> <td>2 月</td> <td colspan="2">進級について考えよう（進路指導部・学習情報部）</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>イ アを踏まえて、各月に分掌における具体的な取り組みを行う。また、教員研修を計画的に行う</p> | | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 月 | 挨拶をしよう（生徒生活部） | | | 5 月 | 遅刻をしないようにしよう（生徒生活部） | | | 6 月 | 授業を大切にしよう（学習情報部） | 修学旅行を成功させよう（学年） | | 7 月 | 基本的な生活を振り返ろう（生徒生活部） | | | 9 月 | 文化祭を成功させよう（行事企画部） | | | 10 月 | 将来を考えよう（進路指導部・学習情報部） | 社会について考えよう（進路指導部） | | 11 月 | 社会の構造を学ぼう（進路指導部） | リーダーを自覚しよう（行事企画部） | 他者を理解しよう（生徒支援会議） | 12 月 | 人権について考えよう（生徒支援会議） | | | 1 月 | 健康管理に努めよう（生徒生活部） | | | 2 月 | 進級について考えよう（進路指導部・学習情報部） | | | <p>(2) ア 各月に目標設定した内容に関する学校教育自己診断に関わる結果の 5%向上をはかる。（平成 27 年度平均 51.6%） イ 各月に分掌から具体的な目標を提示し、70%以上の生徒が何らかの取り組みを実施する。また、計画的に教職員も研修を実施し、共通認識をしながら目標達成をめざす。</p> |
| | 1 年 | 2 年 | 3 年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 月 | 挨拶をしよう（生徒生活部） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 月 | 遅刻をしないようにしよう（生徒生活部） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 月 | 授業を大切にしよう（学習情報部） | 修学旅行を成功させよう（学年） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 月 | 基本的な生活を振り返ろう（生徒生活部） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 月 | 文化祭を成功させよう（行事企画部） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 月 | 将来を考えよう（進路指導部・学習情報部） | 社会について考えよう（進路指導部） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 月 | 社会の構造を学ぼう（進路指導部） | リーダーを自覚しよう（行事企画部） | 他者を理解しよう（生徒支援会議） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 月 | 人権について考えよう（生徒支援会議） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 月 | 健康管理に努めよう（生徒生活部） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 月 | 進級について考えよう（進路指導部・学習情報部） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|-----------------------------|---|--|---|---|
| <p>3 地域連携と開かれた学校づくり</p> | <p>(1) 信頼される学校づくりの推進 ア 学校行事の更なる充実 (継続)</p> | <p>(1) ア 体育祭運営や文化祭運営など部活動生徒を積極的に活用しながら行うことで、生徒が主体的に参加している意識の向上をはかり、活気のある学校行事とする。(継続)</p> | <p>(1) ア 各種行事に積極的に参加しているとする割合を5%向上させる。また、学校行事が工夫されているという割合も5%向上させる。(平成27年度実績67.3%)</p> | <p>(1) ア 体育祭では競技運営を部活動加入生徒が行い、文化祭でも生徒会と部活動生徒が活躍できるように、生徒が主体的に動ける場面を創出した。その結果、来校者数は体育祭は192名→248名、文化祭は612名→687名に増加した。反面生徒による結果は55.5%と昨年度を下回った(△)。3年生に関しては63.8%と昨年並みの結果を得られた(○)。</p> |
| | <p>イ 生徒会活動の充実と中高連携の更なる推進 (継続・新規)</p> | <p>イ 生徒会発信の取り組みの充実をはかる。平成27年度には本校イメージキャラクターを選定した。平成28年度にはイメージキャラクターの浸透をはかりながら、生徒会活動が目に見える形にする。また、学校説明会等において、地域に生徒が出る期間を増やす。(継続・新規)</p> | <p>イ 生徒会が地域に出る割合を10%増加させ、同時に生徒会活動が活発であるとする割合を5%向上させる。(平成27年度実績29.4%)</p> | <p>イ 生徒会が主となる活動に関して、今年度は定期的な地域清掃活動及び7月・12月に実施される、島本町清掃活動への参加も増加した。12月には国際交流事業により、オーストラリアからの高校生も受け入れ好評であった。生徒会ブログも導入し、活動自体は活性化したが、自己診断の結果は23.7%と低調であった(△)。目に見える活動が必要である。</p> |
| | <p>ウ 地域連携の更なる推進 (継続)</p> | <p>ウ 地域からの依頼に伴う出演だけではなく、本校発信の事業を行うことで、本校に足を運んでもらえる機会を増やす。(継続)</p> | <p>ウ 本校発信の事業を現行で行っているものよりも少なくとも1つは増やす。</p> | <p>ウ 今年は地域連携型総合スポーツクラブとの共同実施で、キッズテニス教室及びキッズバレーボール教室を開催し、20名の参加があり好評であった(年3回)。また、中学校と連携し、国際交流事業を12月に実施し好評であった(○)。</p> |
| | <p>(2) 中高連携の推進 ア 中学校訪問の充実 (継続)</p> | <p>(2) ア 中学校訪問を各学期に1度ずつ行い、本校の取り組みに対する一層の理解をして頂けるようにする。また、問題事象の共有をはかりながら、新たに始まる合理的配慮に対応できるようにする。(継続)</p> | <p>(2) ア 在籍する生徒で配慮を必要とする場合には、保護者との連携を推進し、合理的配慮を適切に行う。結果として、人権に配慮されているという割合を5%向上させる。(平成27年度実績66%)</p> | <p>(2) ア 中学校訪問は計画的に実施できている。合理的配慮に関しては、今年度は求められる保護者、生徒はおられなかったが、引き続き年度当初でも配慮が必要な場合には、適切に行えるようにしていく。人権に配慮されている保護者の割合は64.4%であり、ほぼ横ばいであった(△)。</p> |
| | <p>イ 中高連絡会の継続実施と情報提供の充実 (継続)</p> | <p>イ 中高連絡会を継続的に実施し、特に1年生に関する状況について共通理解をはかり、中退防止をはかる。(継続)</p> | <p>イ 生徒情報を共有することで多方面から働きかけを行い、中退数を10%減少させる。(平成27年度31名)</p> | <p>イ 中高連絡会にも例年に引き続き参加し、特に1年生の情報を発信している。中退者数については、年度内30名以下を目標としたが、年度末で24名となった。(○)</p> |
| | <p>(3) 開かれた学校づくり ア 広報活動の更なる充実 (継続) イ 自己診断を活用した学校改善の充実 (継続)</p> | <p>(3) ア 生徒会通信による情報発信やHPの充実をはかり、取り組みの見える化をはかる。また、保育専門コースの生徒による学外での活動を増やすことで、本校生徒の理解を深めてもらう。(継続) イ 学校教育自己診断を活用しながら、学校協議会やPTA実行委員会より意見を頂き、生徒がよりよく学校生活を送れるようにする。(継続)</p> | <p>(3) ア 生徒会通信を地域中学校等に発信し、本校の取り組みを広報する。また、保育専門コース生徒による学外での活動を現状より1つ以上増やし、活動を地域に発信する。 イ 学校協議会やPTAからの意見を吸収し、反映することで、学校教育自己診断の保護者や生徒の肯定的な回答を5%程度向上させる。(平成27年度実績：生徒68.5%、保護者67.5%)</p> | <p>(3) ア 前期生徒会に関しては、文化祭まで行事に追われる形ではあるが、滞りなく実施できた。後期に入り、生徒会通信に代わって、生徒会ブログをHPに立ち上げ活動の情報発信を行っている。保育専門コースもイオン茨木で活動を行い、少しずつ活動場所を広げている。中学校との国際交流連携事業や地域連携型スポーツクラブとの共同での地域発信事業も行い好評であった(○)。 イ 学校協議会及びPTA活動の場面でも学校の取り組みを積極的に増やし、特に学校に足を運んでもらえるように、花壇の植栽、陶芸教室を次年度実施に向けて試験的に実行委員で実施した。次年度は目に見える形にしたい。なお、学校に行くのが楽しいとする生徒の割合は58.5%、保護者の割合は70.2%であり、生徒と保護者の意識が異なっている点を解明する必要がある(△)。</p> |